

Q1 英語学習において継続していることはありますか？

(尹さん) 会社が提供する様々な研修プログラムを活用し勉強を続けています。少人数の社内英語講座から社外のオンライン英会話プラットフォームなどがあります。最近では、生成AIを使用し、与えられたトピックについて音声でフリートークするプログラムがありましたが、意外と精度が高くて、表現を直してくれるなどの便利な機能もあり、大変練習になりました。

Q2 大学生に戻れるなら、何をもってしておけば良かったなと思いますか？

(尹さん) あまり後悔のない大学生活でした。強いて言えば、アメリカへの留学期間を半年ではなく1年間にすればよかったと今でも思います。当時は、就職活動や卒業に必要な単位のことや心配で、リスクが大きいと考え留学期間を半年間にしてしまいましたが、そういうことは結局なんとかなることだと後から気がつきました。逆に、ペンシルベニア大学の学生として過ごすことができるのは、今後二度とないことだと思うので、もう1学期留学をすれば良かったと思います。リスクを恐れすぎず、大事なことを見極めて思い切ってやることは大事だと思います。

Q3 授業以外で英語に触れることはありましたか？

(田川さん) 基本的に英語を話すのは授業内、または留学生たちと話をする程度でした。リスニングとリーディングに関しては英語の記事を読んだり、Podcastを聴いたり、TOEFLの勉強をしたりとさまざまな方向から学習をしました。ライティングに関しては、意識してフレーズを覚えたり使ったりするようにしていました。

Q4 文系の経営学部から理系の学問に進む際に苦勞したことはありますか。

(田川さん) 特に辛いなと感じたことはあまりないです。何を作りたいのかで悩んだことはありますが、概念等を理解するのに苦勞はしませんでした。それはこのコンピュータサイエンスという分野が自分にとっての趣味のようなものであったからで、本当に好きなことであればどんな困難も喜びに変わるのだと思います。ですので、苦勞ということはしていないという結論に至るのだと思います。理系の学問で大切なのは自分で解決する力です。その思考力さえあればどんな分野に進むことも容易なのではないかと感じています。

Q5 プログラミングの学習は現在のキャリアに活きていると感じますか？

(田川さん) プログラミングを学んだことは、現在エンジニアをしているということから見てもキャリアに直結していることは明らかでしょう。プログラミングはどの分野にも通じるエッセンスが含まれているとも感じているので、どのキャリアにいても活かさせる学びであると思いますし、これからキャリアが変わったとしてもこの経験は必ず活かされるものであるといいと思います。

Q6 留学に向けて優先的に取得しておいた方が良い資格を教えてください。

(畑山さん) TOEFLやIELTSは受験しておいて損はないかと思います。スコアがあればあるほど留学先の選択肢が広がります。あとは留学先の言語を学ぶこともプラスになりますが、日常会話ができる程度のレベルじゃないと資格を持っていてもあまり意味がないかなとは思っています。語学力を向上させて日常的な運用に繋げるという意識を持って資格試験への勉強をするのがおすすめです。

Q7 仕事でも海外の方と英語でコミュニケーションをとられているとのことですが、語学力向上のために授業以外でどのような取り組みをすると良いですか。

(畑山さん) とにかく英語にたくさん触れる時間を増やすことが良いと思います。帰国後、4年の後期にIELTS受験のために勉強していたのですが以下の取り組みをしていました。

- 1. Podcastを毎日聞く：** British Englishに慣れるために日常的な会話が聞けるPodcast (Luke's English Podcast) と、IELTSのSpeakingの対策のためのPodcast (IELTS Speaking for Success) を毎日聞いていました。コンテンツとして楽しむことができると継続できるので、自分が興味のあるトピックに触れているものを一つ持つことがおすすめです。
- 2. 友達と英語で話す：** 日本人外国人問わず、英語で話す時間を作りました。
- 3. テキストを解く：** Writingのためのテキストをとにかく数をこなしていました。

社会人になってからは社内ツールが英語であることぐらいで、大学生の頃と比べると英語に触れる時間は少なくなってしまったので衰えていく一方だなと感じています。。。なので自分が強化したいところに重点を置いてとにかく英語に触れる時間を増やすのがいいかなと思います 📖

Q8 留学を通じて英語運用能力はどれくらい伸びましたか？

(畑山さん) ReadingやListeningについては困難を感じないレベルになったかとは思いますが。話すことについては、ネイティブではない留学生との交流がメインだったためものすごく向上したかと言われればそうではないかもしれません(笑) Writingについてもどちらかというところ日本のGreatの授業で課題が出ることの方が多かったと感じているので劇的に飛躍した感はありませんでした。

Q9 Speakingの能力を上げるためにおすすめの方法はありますか？

(河崎さん) TOEFLの問題を実際に声に出して解答し、それを録音して聞きなおすことです。前提として、スピーキングは練習をしないと絶対に上達しないので、英語を声に出す機会を増やしてください。自分のスピーキングを自分で聞いてみると、意外とスムーズに話せていない箇所や、良くない癖が発見できます。あとはリスニングの勉強ついでにシャドーイングもよくやっていました。

Q10 デュアルディグリープログラムに参加するためには、金銭的な負担が非常に大きいと思いますが、どのような奨学金制度を活用されましたか。現地での生活の様子も教えてください。

(河崎さん) 明治大学外国留学奨励助成金とトップユニバーシティ留学奨励助成金の2つを使用しました。現地での生活は、ルームシェアをしていました。そこで日本と異なる文化や生活をルームメイトから体感することができました。

Q11 もっとこうしておけば・・・という後悔などはありますか？

(河崎さん) 具体的に将来やりたいことを固めてから留学に臨めていれば、留学がより有意義な経験になったのかなと思います。主に就職活動の話になるのですが、面接官が聞いてくること、つまり応募者に求めている経験やスキルは、業界や職種である程度の傾向が存在します。自分が行きたい業界で求められる人材を事前に調べて把握し、逆算的に留学中の目標を決定して、その目標に向かって行動ができていれば、就職活動での苦労が減ると思います。

Q12 COOP制度で海外で仕事を獲得するにあたって必要な要素などがありますか。

(河崎さん) 仕事を選びたいのであれば、専門的なスキルが必要です。ご存じの通りCOOPは有償の仕事であるため、会社はボランティアで学生を一定期間雇用しているのではなく、利益を出すための人材を求めています。他のUVIC生もインターンを探している中、何のスキルもない外国人を雇用して勉強させてくれる企業はあまりなく、日本にいるうちに行きたい業界のアルバイト通じて就業経験を積んだり、例えば会計の職に就きたいのであれば資格を取るなどして、企業がネイティブの学生ではなく外国人の学生を雇う理由を作っておくことをお勧めします。

仕事を選ばないのであれば、根気があれば仕事を獲得できます。4ヶ月間フルタイムで働くアルバイトを募集しているお店は存在していると思います。タイミングが良ければ私が働いていたBurnabyにあるユニクロもフルタイムワーカーを募集していると思います。

Q13 留学経験がどれくらい就職活動に影響を与えましたか？有利に働いたと感じますか？

（河崎さん） 私は日本で他の日本人学生と同様に就職活動をしたのですが、そこまで有利に働いたと感じませんでした。就職活動の時期がCOOPや授業の学期と被っているため、時間の確保が難しいです。また、デュアルディグリーは日本では馴染みが無いく、2つの学位を持っていることがそこまで魅力にはなりません。結局は留学中の行動や経験に着目されるため、その業界が求めているエピソード作りができているかどうかだと思います。

Q14 留学までにしておけばよかったと思うことはありますか？

（河崎さん） 就職活動を見据えた目標設定ができていればより充実した留学生活ができたかなと思います。また、COOPを見据えて行きたい業界のアルバイトを日本で出来たら、より良かったと思います。